

平成30年3月 データから見た業界の動き

■ 概 況

平成30年3月の山梨県内の全業種のD I値は、前年同月と比較し、売上高は不変、収益状況は2ポイント改善、景況感は6ポイント悪化した。

前月の比較では、売上高で8ポイント、収益状況は4ポイント、景況感は2ポイントそれぞれ改善している。

業種別のD I値において、製造業における前年同月比は、金属加工及び一般機器の業界においては好調が続いているが、骨材製造における製品出荷量や、木材・木製品製造業の受注減少が影響し、製造業全体として、売上高は5ポイント悪化する結果となった。

一方、非製造業においては、青果や食肉の原価が安定したため、売上高は3ポイント、収益は4ポイント前年同月比から改善した。しかし人材不足・人材定着の課題に対する改善策が進まず、さらに建設業においては、公共工事の減少に伴い仕事量を確保できていない企業もあり、先行きに対しての不安感・危機感からか、景況感は10ポイント悪化している。

製造業や建設業等の分野に精通した技術者、専門職の不足だけでなく、サービス業においても人手不足が深刻化している。地域経済を支える中小企業の人材確保のための効果的な支援施策が求められている。

■ 業界からのコメント (業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照)

● 製 造 業

食料品（水産物加工）	ギフトの売上が低調。ホテル・レストラン・居酒屋向けの業務用も大口先の取引量が落ち込み、全体として前年同月比90%と大きく落ち込んだ。
食料品（洋菓子製造）	自社製品の売上は量販店向けは前年並み、専門店向け及び輸出が低調で前年比93.2%。OEMは焼き菓子が好調105.5%。全体の売上は前年同月比98.4%。
食料品（麺類製造）	4/10の「ほうとうの日」を多くの消費者に浸透させ、食べてもらえるように活動を行っている。
木材・木製品製造	売上高の前年対比では、木材販売は年間で1.5%減、プレカットではほぼ横ばいという厳しい状況となった。平成30年度も厳しい状況を予想している。
窯業・土石（砂利）	需要が堅調で骨材の在庫不足が続く。売上高は前年同月比20%改善。
窯業・土石（山碎石）	前月から1%製品出荷量が増加したが、年度末となり発注が増加した影響によるもので、改善傾向ではない。売上高は前年同月比6%悪化。
一 般 機 器	前年同月比で売上高、収益状況、景況感とも5%増加。回復基調が続いている。

一般機器	半導体関連が好調で、売上高は3%、収益状況は2%それぞれ改善した。米国での鉄鋼・アルミの関税引き上げによる輸入制限や円高による原材料の高騰など、今後の動きを注視していく。
電気機器	年度末だが、官公庁の受注が少なかった。民間の注文は多いが売掛金の回収が遅れている。
電気機器	半導体部品製造の好調が続くが、他の業種は低調。新年度も厳しい状況である。

● 非製造業

小売（青果）	気温上昇から春野菜の地場産市場への入荷量が増加。販売価格は20%低下したが、これまでの高値による消費者の野菜ばなれから売上が伸びなかった状況からは脱した。今後に期待している。
小売（食肉）	国産牛・国産豚は相場が前年同月から10%下がったことが影響し、収益状況が改善した。東南アジア方面への輸出が増加傾向であり、今後牛肉の相場が高騰することが予想される。
小売（石油）	配送車のドライバー不足から、配送コスト上昇が懸念される。
宿泊業	従業員の不足が深刻で、作業の効率化など工夫を行う必要性を感じている。
美容業	新規参入する低料金の店舗に、既存店の顧客が奪われている。平成29年度の組合新規加入者13名、脱退者22名。組合に加入しない若い経営者に対し、組合加入のメリットをどのように伝え、加入につなげて行くのが課題である。売上は前年同月比20%増。
一般廃棄物処理	現在8施設ある焼却施設を15年間で3施設に集約する広域化計画に関して、区域内における収集運搬業者は運搬効率の違いから更なる作業の効率化を図らなければならないが、運搬距離が増えることもあるため業務委託料の割増など発注者との交渉が必要であると考えている。
警備業	年度末を迎え公共工事等の完成に向けての追い込みから、警備員の派遣要請が増大。各組合員の業績は向上したが、人材不足から取引先の受注に応えられない状況となった。4月は春の祭典やイベント行事があるが、工事発注までの間は業務量が減少する。この期間を活用し警備員の資質向上や人材確保の取り組みに努める。
建設業（総合）	3月の県内公共工事動向は、前年同月比で件数は4%、請負金額は15%増化している。しかし、今年度の累計では件数で3%、請負金額2%と共に減少する厳しい状況である。
建設業（型枠）	年度末である3月は例年通り業務量が増加したが、近年は鉄骨や木造工事が増加していることから、それほど忙しさは感じられなかった。
建設業（鉄構）	鋼材等の材料価格が上昇傾向である。受注は首都圏などの県外物件に依存する傾向が続いている。
設備工事（電気工事）	年度末の忙しさは3月前半で落ち着き、以降は人材が余る状況となった。

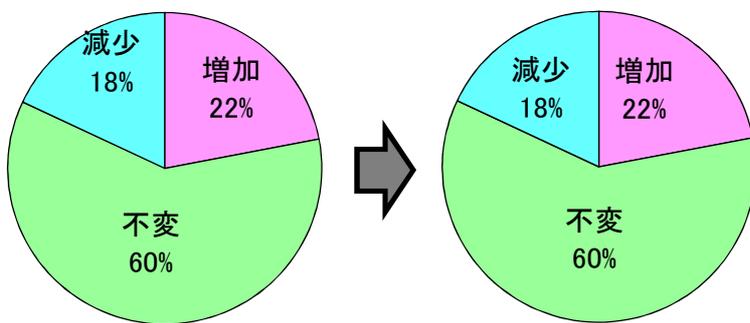
設備工事（管設備）	後継者不足により廃業する組合員があり、事業承継問題が課題である。また、若者が定着せず若年層の人材確保も困難な状況。
運輸（タクシー）	乗務員の高齢化により深夜労働が行えない。前年比で雇用人員は減少。夜間利用客が少なく今後の見通しは厳しい。
運輸（トラック）	ドライバー不足が深刻だが、改善の見込みはない。労働力不足等による長時間労働や過重労働の抑制のため「適正取引及び労働時間のルール」への理解と協力を求める文書が国土交通省、厚生労働省、経済産業省、公正取引委員会の連名で荷主宛に送付された。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

対前年・前月・当月	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
	2017/03	2018/02	2018/03	2017/03	2018/02	2018/03	2017/03	2018/02	2018/03
売 上 高	10	15	5	0	-17	3	4	-4	4
収 益 状 況	-5	10	-5	-7	-20	-3	-6	-8	-4
景 況 感	0	10	0	-3	-23	-13	-2	-10	-8

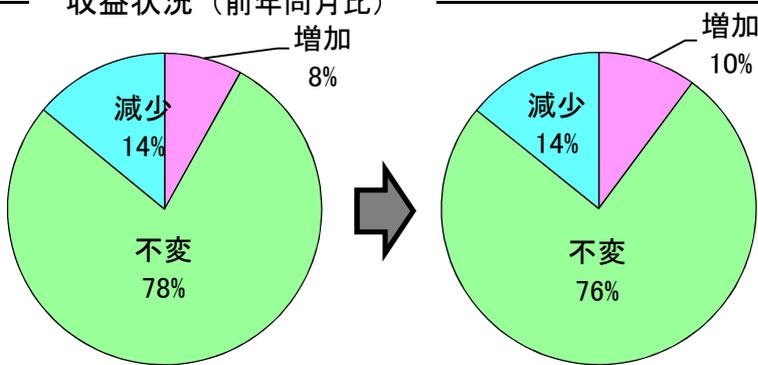
※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I 値

売 上 高 (前年同月比)



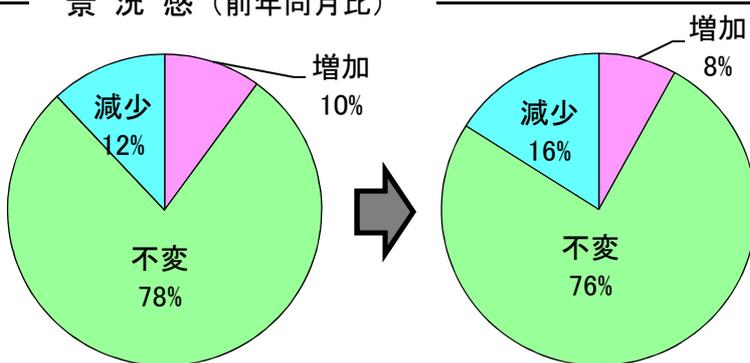
- ・ D I 値 + 4 (前年同月比± 0)
- ・ 業種別 D I 値
 - 製 造 業 + 5 (前年同月比▲ 5)
 - 非製造業 + 3 (前年同月比+ 3)
- ・ 前月比 D I 値
 - 製 造 業 10ポイント悪化
 - 非製造業 20ポイント改善

収 益 状 況 (前年同月比)



- ・ D I 値▲ 4 (前年同月比+ 2)
- ・ 業種別 D I 値
 - 製 造 業 ▲ 5 (前年同月比± 0)
 - 非製造業 ▲ 3 (前年同月比+ 4)
- ・ 前月比 D I 値
 - 製 造 業 15ポイント悪化
 - 非製造業 17ポイント改善

景 況 感 (前年同月比)



- ・ D I 値▲ 8 (前年同月比▲ 6)
- ・ 業種別 D I 値
 - 製 造 業 ± 0 (前年同月比± 0)
 - 非製造業 ▲ 13 (前年同月比▲ 10)
- ・ 前月比 D I 値
 - 製 造 業 10ポイント悪化
 - 非製造業 10ポイント改善